

A group of Japanese women's national football team players in blue and pink uniforms are celebrating a goal on a green field. They are huddled together, embracing, with one player on the right shouting. The background shows a blurred crowd in a stadium.

ウェルフェアオフィサー



ウェルフェアオフィサー 認定講習会

(一社)神奈川県サッカー協会
マッチコミッショナー部会 塚田尚孝
ウェルフェアオフィサー ジェネラル

ウェルフェアーオフィサーとは

🏑 **Welfare Officer**

サッカー界において

Welfare

幸福、快適な生活・・・を追及する

Officer

担当、責任者、役員

ウェルフェアオフィサーの役割と種類

● 役 割

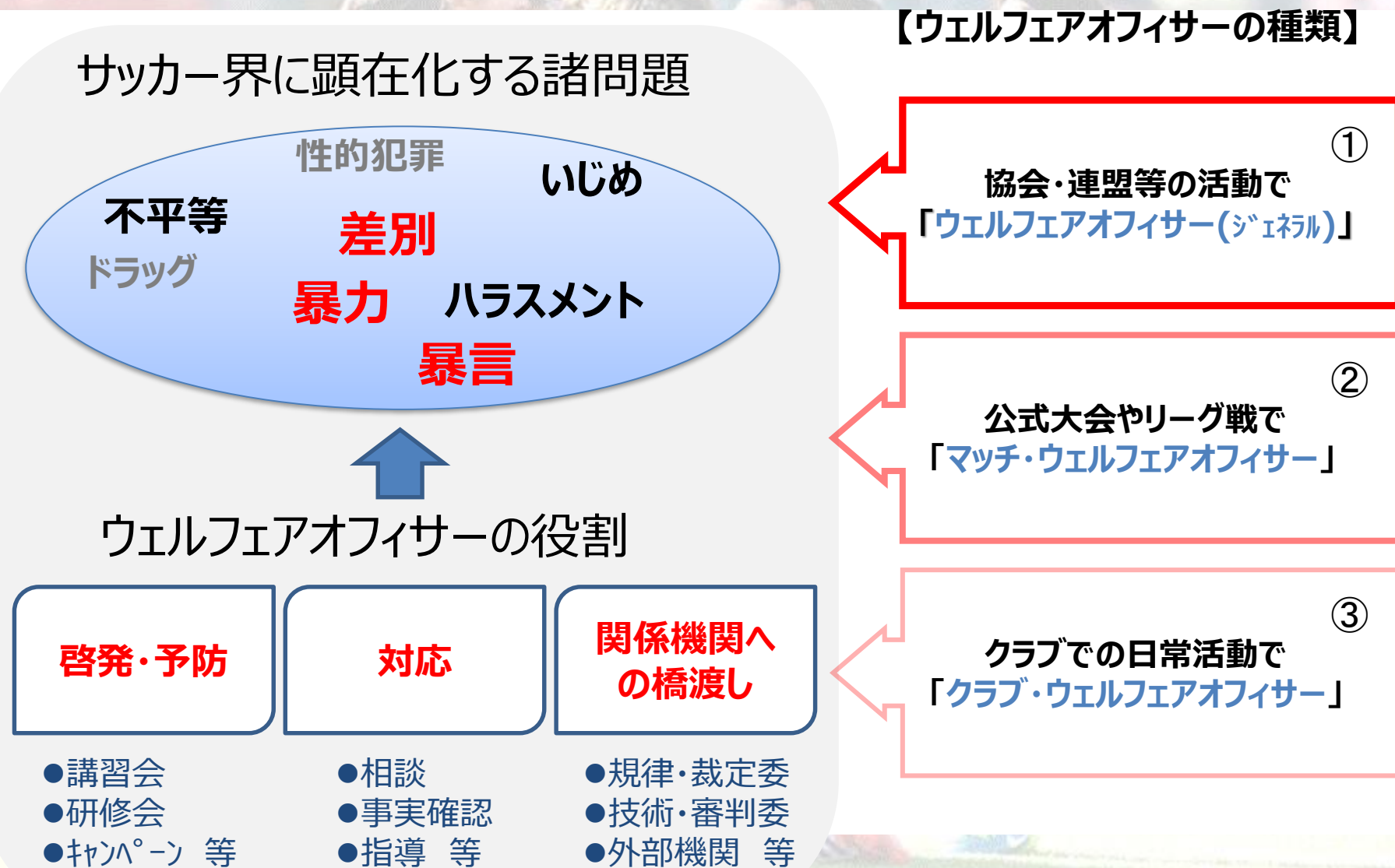
①

“ウェルフェアオフィサー”は
サッカーを楽しむ
サッカーファミリーの**安全、安心を**
守り、より快適なサッカー環境の
構築を進める担当者

リスペクト・フェアプレーの伝道者

③

ウェルフェアオフィサー概念図



相談窓口の現状と取組み

JFA暴力等根絶相談窓口設置背景

学校の部活動からトップレベルまで、
スポーツ指導での暴力の横行が社会問題

- * 大阪市立桜宮高バスケットボール部主将の男子生徒が体罰を受けた後に自殺（2012年12月）
- * 柔道女子日本代表では指導者による暴力とパワーハラスメントを選手15人が告発（2013年1月）



2013年6月24日
JFA暴力根絶相談窓口を設置（電話又はFAX）

誰もが安心・安全に心からサッカー、スポーツを楽しむために



目的：サッカーの活動現場における組織的または個人的な暴力行為
の早期発見と是正および再発防止に努める

暴力等根絶相談窓口の役割

●相談受付

●事実確認（他団体へ協力依頼）

●是正措置

- 司法機関への受け渡し（裁定委員会・規律委員会）
- 技術委員会（ライセンス適格性再審査）
- リスペクト・フェアプレー委員会（啓発・普及活動）

※懲罰事案

- FA・連盟規律委員会等の司法機関で審議
一定以上の懲罰の場合、JFA裁定・規律委員会へ懲罰案を提出
- JFA裁定・規律委員会で審議・懲罰決定
- 指導者ライセンス保持者の場合は、ライセンス適格性を
JFA技術委員会で再審査

JFA暴力等根絶相談窓口データ

＜通報件数＞（2013年6月12日～2017年10月31日）

389件

2013年：70件

2014年：85件

2015年：75件

2016年：74件

2017年：85件

＜通報種別＞

4種：179件

3種：67件

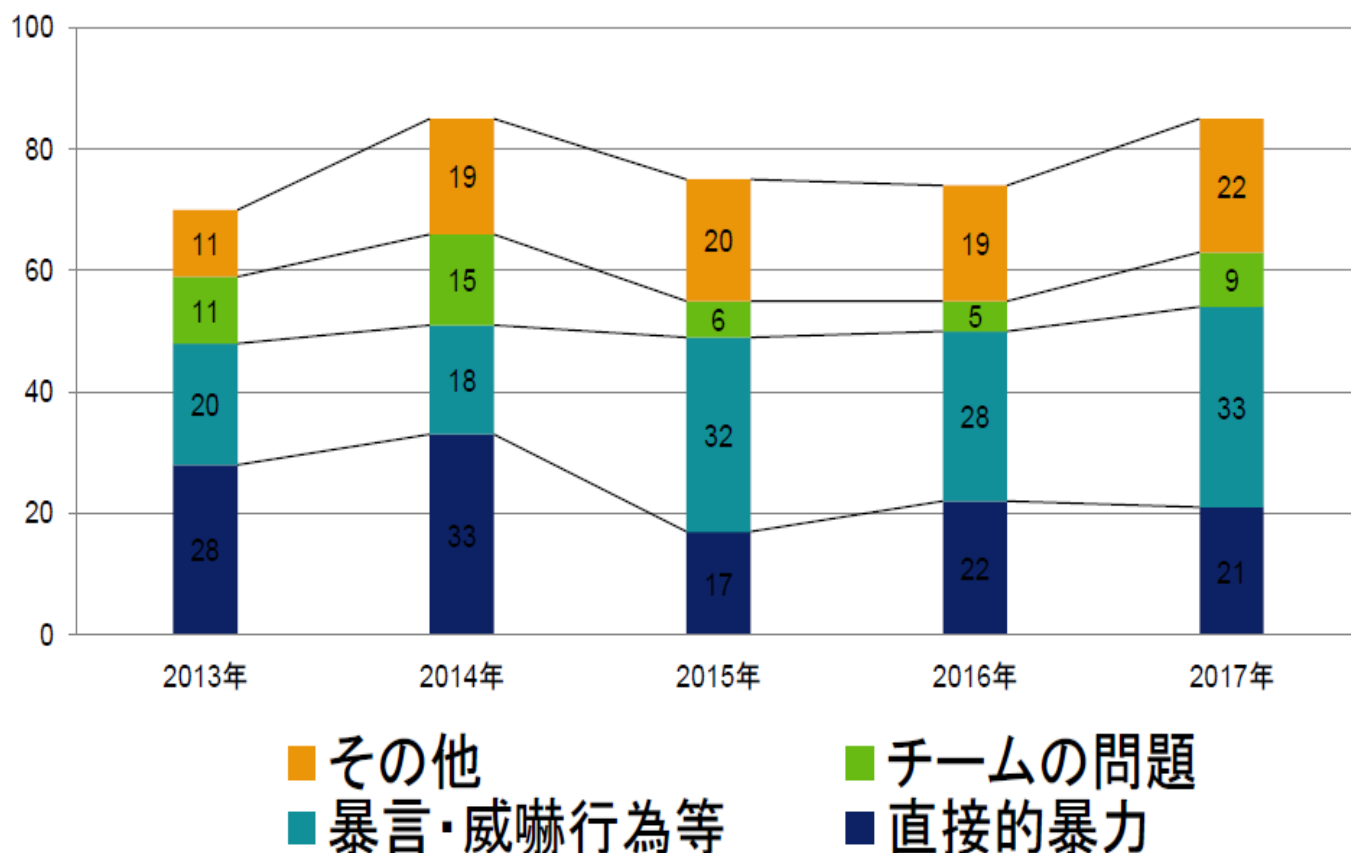
2種：38件

1種：10件

女子：11件

その他：84件

報告種類(年度別)



通報内容（行為）

- 暴力（殴る、蹴る、平手打ち、ボールをぶつける）
- 暴言（人格否定等）
- セクシャルハラスメント、パワーハラスメント
- チーム運営（退団・移籍・保険・経理）

通報内容（被害内容）

- ケガ
- PTSD、引きこもり、不登校
- 退団、サッカーをやめる
- サッカーを嫌いになる
- 不信感（大人、異性、仲間に対して）

通報の特徴

目の行き届きにくいところで発生傾向

- 日常活動（練習）で
- 合宿・遠征で（宿舎・寮等）
- 学校で
- 辞めた選手の保護者から
- 匿名での選手保護者から

相談一例

神奈川県内少年チームからの通報

- 4種チーム指導者が小学生選手に対する暴力・暴言がある。
- 指導者は主に下手な選手に向かって「練習を休むやつはクズだ」と言ったり、言うとおりにプレーできない選手に罰走をさせている。
- 練習や練習試合で、上手にプレーできない選手の肩や頭を小突く。
- 他の保護者も指導方法に疑問を持っているが、自分の子供に対する態度が悪化することを考えると指摘できない。

解決までの流れ（例）

（基本的にはJFA窓口よりチームの自浄努力を促すが、
難しい場合は以下の流れとなる）

- JFAより、チームが所属するFAのウェルフェアオフィサーに調査を依頼
- ウェルフェアオフィサーが、通報者、被通報者、チーム関係者からヒアリングを行い、事実認定を行う。
- 事実が認定された場合、FAより当該チーム・被通報者へ指導し、再発防止の誓約書に署名してもらう。
- 案件が重大な場合は、FA規律委員会にて被通報者に対する懲罰を決定。
- 数ヶ月間経過を観察し、改善状況を確認。

朝日新聞掲載記事 2017/3/24

小学生 減らない指導者暴力



JFA相談窓口設置3年半

日本サッカー協会（JFA）が指導者などの差別や暴力を対象にした「暴力根絶相談窓口」を作ってから約3年半。この間、約300件の相談が寄せられたが、約半数は小学生が被害者とされた案件だった。年別に見ると、相談件数は決して減ってはいない。このことが競技人口の減少につながりかねない、という危機感もあり、関係者が各地で対策を始めている。

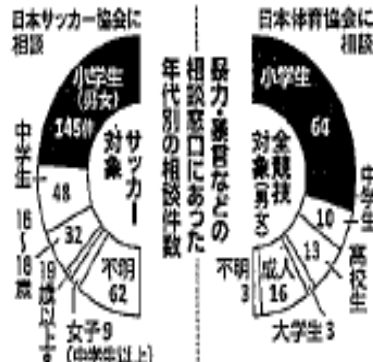
JFAは、大阪市立桜宮高校のバスケットボール部主将が体罰を受けて自殺した事件の後、2013年6月に専用電話を設けた。16年未だに804件の相談があり、世代的には小学生（男女）が被害者のケースが146件で、47・6%を占めた。中学生（男子）は48件、高校生（男子）世代的には32件。中学生以上の女子は9件だった。

JFAは、大田市立桜宮高校のバスケットボール部主将が体罰を受けて自殺した事件の後、2013年6月に専用電話を設けた。16年未だに804件の相談があり、世代的には小学生（男女）が被害者のケースが146件で、47・6%を占めた。中学生（男子）は48件、高校生（男子）世代的には32件。中学生以上の女子は9件だった。

日本体育協会が設置した同様の窓口でも、小学生の被害が多い傾向にある。サッカーを通じてフェアプレーを啓発しているJFAリスペクト・フェアプレー委員会の松崎康弘委員長は「小学生の現場に問題が多いとは耳にしていたが、残念ながら数字に表れた」と話す。

JFAの相談窓口で小学生が被害に遭ったケースの内訳は「直接的な暴力」が37・2%と最も多く、「暴言や威嚇」が35・1%。事実確認ができた場合、活動停止などの処分も行った。年別の全体の件数は13年が70件、14年が85件、15年が75件、16年が74件だった。JFAは対策としてイングリッド協会をモデルにした「ウェルフェアオフィサー

競技人口減に影響も ■「見守り役」広める



日本サッカー協会への取材から、13年6月～14年12月の相談。日本体育協会への取材から、14年11月～15年2月の相談。

2015年全国少年少女サッカー大会であったベンチからの「指示」の例

能のないやつ
役立たず
ふざけんなこら
バカ、親の顔が見たい
消えろ



岡山県サッカー協会の対策「リスペクトワークショップ」=14年7月
写真は15年岡山県サッカー協会主催

「見守り役」を広めようとしている。15年に制度化したもので、一定の研修を受けて認定されたオフィサーが試合や練習の「見守り役」となり、行き過ぎた指導に対する警告や、その予防に努める。オフィサーは各地の協会や連盟の役員のほか、各クラブの代表者らが研修を受けてなるもので、保護者でもなれる。

静岡県では16年から県内の小学生チームを対象にオフィサーになるための研修会を開く。338チームの728人が参加した。「サッカー王国」と言われてき

た静岡県だが、小学生の競技人口は減少傾向。同県協会の竹山勝彦専務理事は「指導者の暴力や暴言と関係がある」と受け止めている。15年夏に県内で開催された全国少年少女サッカー大会の会場で表層調査をした竹山専務理事は、指導者から選手に向けて「消えろ」「役立たず」「親の顔が見たい」という声が見えたと話した。

岡山県協会は、14年6月にあった県大会の会場で30代の監督が小学生の選手に「消えろ」という言葉を投げかけたという。岡山県協会は、14年6月にあった県大会の会場で30代の監督が小学生の選手に「消えろ」という言葉を投げかけたという。

相談窓口 まとめ

●相談窓口の活動目的は、

- 不適切な行為や環境を**早期発見し、是正措置**をすること。
- 処分することが目的ではない。
- サッカーを楽しむ環境を整備・守ること。

●相談へ対応する際の留意事項として、

- 中立に、傾聴して、通報者保護の観点も忘れずに

●被通報者（主に指導者）への対応は、

- 情熱をもってサッカーに関わっている方を守るためでもある。

マッチ・ウェルフェアオフィサー



手順

1. 大会前の監督会議にて趣旨の説明

試合前の挨拶、試合後の話をさせてもらうことの伝達



- 試合毎のマネージャーズミーティングをこれに代えることも可能だが、マネージャーズミーティングは必ずしも監督が出席するとは限らないので、全国大会では実施していない。
- 試合前、試合後の時間設定はせず、フレキシブルに対応。
グループステージ／決勝ラウンドの違い
⇒ 認知され定着してくれば、時間を設定する事も可能になるかも

手順

2. 試合視察

本部にて、両ベンチ、選手の反応を含め、試合を観る。

観客を含め全体の環境を意識

暴力・暴言の気づき、審判への態度、観客の言葉含む

(+テクニカルの観点) 安心・安全、暴力・暴言について

● 指導者（応援者）の選手への関わり・・・

- ・発言が選手や審判にポジティブ／ネガティブな影響を与えていないか
- ・選手が委縮していないか、失敗を恐れていないか
- ・日々の積み重ね、習慣はあるとしても、同じ言葉、態度でも、不快に感じることもある。
- ・褒める、励ます、トライを促す、鼓舞するなど、必要なコーチングは重要

手順

3. 試合終了後

WOがそれぞれの監督のもとに行き、
その場で短時間で簡潔に講評。
監視、取締り、管理という意味ではなく、
あくまでも
サッカー仲間としての気づきを伝える。

効果

- WO配置による抑止力
- 試合中の暴言や審判へのクレームが減少
- 試合後に客観的な「気づき」を伝える



耳を傾ける指導者がほとんど
事前の周知及び理解が必要



技術委員会・審判委員会との連携



JFA NTC(大会TSG)が
ウェルフェアオフィサーを
兼務した例



- ＋ 試合についてのテクニカル面の講評
- ＋ 審判との協調・・・審判アセッサーとの同席・共有
「逞しい個を育てるためのレフリング・指導者の関わり」

マッチWO まとめ

- 共感を持ってサッカー仲間としての気づきを伝える。
- テクニカル関係者がやると付加価値
- 審判と協調ができればさらに付加価値
- 全試合配置を基本とする必要はない
- 大会を通しての啓発も企画（ポスター、アナウンス等）
- ぜひFA内でのトライを

クラブ・ウェルフェアオフィサー



基本的考え方

- マッチ・ウェルフェアオフィサー



非日常

気づき、刺激

- クラブ・ウェルフェアオフィサー



日常

継続性、習慣化

基本的考え方

- 起こってしまったケースへの対応

- 啓蒙啓発

- 予防

気になるけれど…。 白？黒？信頼関係？
問題に発展する前にアプローチ
クローズ → オープンに

➡ 情熱ある指導者、クラブをサポート、守る

手順

- 担当者の配置

取り組みの意思表示

県/市FA、連盟、リーグでの対応のネットワーク

啓蒙啓発の推進者

- クラブ関係者にとっての相談窓口の整備

いろいろな相手への相談がありうる

クラブ全体の取り組みにする

手順

- クラブの方針、フィロソフィーの明確化
会則、フィロソフィーを持つ 活動の前提として
スタッフ、部員、新入部員（保護者）との確認
- スタッフの研修、ディスカッション
- 選手たちとのディスカッション
リスペクト、差別等に関してリスペクトワークショップ
- 保護者会等での保護者とのコミュニケーション



定期的に考える、話し合う

ハンドブック、ポスター、ワークショップ他

手順

クラブ内の体制、組織化

- WOの設置、明確化
- クラブ内のコミュニケーション体制確認
- 県/市FA、連盟等との連絡経路・手順の確認
- 関係外部機関との連絡経路の確認

クラブW〇 まとめ

- 日常的、継続的なアプローチ
- オープン 会話、気づきを伝え合う組織
- 学び合う、話し合い、考え続ける
- 理解者を増やし、文化にする

今後に向けて 大方針

**「スポーツ活動において、
今後一切の暴力を根絶する」**

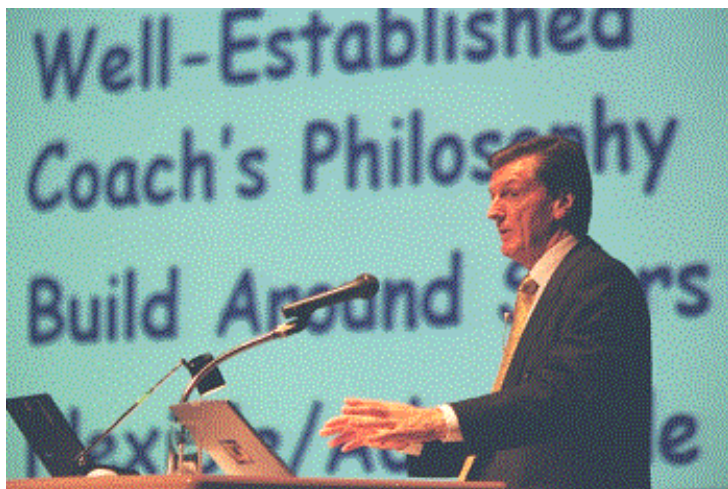
**指導現場での暴力を用いての指導を
しない、させない、許さない**

ウェルフェアオフィサーは

- 指導者として善かれと思つての言動が、ネガティブな結果を生み出す可能性があることを知り、指導者に伝えること。
- 身近な仲間が気付きを伝える勇気、身近に相談できる存在。

“ウェルフェアオフィサー”は、サッカーを楽しむサッカーファミリーの安全、安心を守り、より快適なサッカー環境の構築のための担当者

“You touch the future!”
指導者は選手の未来に触れている



アンディ・ロクスブルク
（前UEFAテクニカルダイレクター）

「**今日の結果**ではなく、
子どもが**明日どんなプレー**をするかを
楽しみに指導をすること」



イビチャ・オシム
(元日本代表監督)